

## 東京都荒川区「秋のエコフェスタ」で 環境授業を実施しました

10月27日(土)、そらべあ基金は東京都荒川区が主催する「秋のエコフェスタ」に参加。「ソーラーLEDランプ作りに挑戦～自然エネルギーでそらべあの涙を止めよう!」をテーマに出張環境授業を「あらかわエコセンター」にて実施しました。

授業が始まると「そら」がどうして涙を流しているのか、そのストーリーをアニメーションで紹介。地球温暖化の影響で、北極の氷が少なくなっていることを知ってもらいます。そして、「どうして温暖化が起きるの?」「温暖化が進むと何が困るの?」「温暖

化を防ぐには自然エネルギーが大切」といった内容を、クイズもまじえながら説明していきます。

前半の授業が終わると、後半は工作の時間。太陽の光で電気を作り、夜になるとLEDランプが点灯する「ソーラーLEDランプ」作りに挑戦してもらいます。出来上がったランプは、きっとお部屋を自然エネルギーの光で彩ってくれることでしょう。

参加してくれた子どもたち、保護者の方々、ご尽力いただいた荒川区職員のみなさま、ありがとうございました。



環境授業にはそらべあ兄弟の弟「そら」も駆けつけてくれました



地球温暖化が進むと、西暦2100年の東京の気温は44℃になる?!



小さなLEDランプも暗くなると明るく光るね

そらべあ基金  
事務局の  
つぶやき

### 韓国・清州市より市議会視察団が来訪

11月1日(木)、韓国清州(チョンジュ)市から、市議会議員の視察団がそらべあ基金を訪問。事務局スタッフと交流を深めました。

今回の視察団は、市議会経済環境委員会の議員など9名で、地球温暖化防止に向けた日本での取り組みを知るために訪日。自治体やゴミ処理工場などを視察されており、NPO法人ではそらべあ基金が唯一の訪問先となっています。事務局からは、キャラクターのそらべあ兄弟や基金の10年間の歩み、スマイルプロジェクトや環境教育の活動内容を説明するなど、サポーターとともに地球温暖化防止に向けて歩み続けている姿を紹介しました。これからもこのようなかたちで海外からのお客さまと国際交流を進めていけたらと思います。



遠いところへお越しいただきありがとうございました(東京・新橋のそらべあ基金事務所にて)

### そらべあサポーターズクラブ

- プレミアムサポーター ソニー損害保険株式会社
- オフィシャルサポーター ソニー生命保険株式会社
- そらべあ基金サポーター 株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント/  
株式会社毎日新聞社/ゼロワットパワー株式会社
- そらべあ基金応援団 株式会社東急ハンズ/日本風力開発株式会社/  
株式会社ディノス・セシール/株式会社シール堂印刷/  
株式会社NTTスマイルエナジー
- 個人・ファミリーサポーター 30名 (2018年12月10日現在)

読み終わったら、捨てずに回し読みしてね。



### そらべあ便り vol. 37

2018年12月発行  
編集: 青木一夫  
デザイン: 草薨聡子

NPO法人 そらべあ基金  
〒105-0004  
東京都港区新橋2-5-6  
大村ビル8F  
TEL : 03-3504-8166  
FAX : 03-5157-3178  
http://www.solarbear.jp

# そらべあ便り

Solarbear Newsletter | Vol.37

2019年、  
そらべあは星に  
何を願うのかな

## 埼玉県・わかたけ元町保育園で「そらべあ環境シアター」を実施

9月20日(木)、埼玉県所沢市にある「わかたけ元町保育園」で、東京造形大学の学生たちが「そらべあ環境シアター」を実施しました。これは、そらべあ基金の理事を務める同大学学長の山際康之先生が運営するエコプロジェクトのひとつ。スタート以来7年目を迎え、のべ2千名以上の園児たちが参加してきました。

劇が始まると、正面に据えられた氷のステージ上にそらべあ兄弟とお母さんの人形が登場。お母さんが「北極も私が小さかった頃と比べるとずいぶん暖かくなってきたのよ」と話したその時、氷の地面が割れて流れていき、お母さんは見えなくなってしまう。お母さん呼びながら「そら」と「べあ」が

涙を流すと、園児たちも悲しそうです。

そこへ太陽、風、木の3人の妖精が現れ、子どもたちと一緒に「幸せなら手をたたこう」の替え歌・そらべあバージョンを歌うと、お母さんがのっていた氷がそらべあ兄弟の氷に近づいてきて、お母さんと再び会うことができました。そして、小さな人形に代わって等身大の「そら」と「べあ」が舞台上に登場。そらべあ兄弟がお母さんと会えたことをみんな喜び合いました。

熱演してくれた東京造形大学の皆さん、参加してくれた園児の皆さん、園の先生方、ありがとうございました。



## そらべあ紙芝居や発電モニターで電気の大切さを教えています ～稲荷砂川保育園～

2017年12月に「そらべあ発電所」の寄贈を受けた京都市の稲荷砂川保育園では、京都市保育園連盟が2005年に制定した「京都子ども議定書」を大切に、その約束ことを子どもたちと守っています。それは「でんきをつけばなしにしません」「おみずをだしばなしにしません」「たべものをそまつにしません」といった内容です。

「そらべあ基金から寄贈された紙芝居『そらべあ』を子どもたちに読み聞かせることで、食べ物、水、電気など身近にあるモノを大切に使うことを具体的に伝えています。紙芝居の最後に「稲荷砂川保育園」の寄贈式典の写真が出てくると、子どもたちから『ワッ!』と歓声があがるんですよ」と、前川喜美代園長は話します。



そらべあ紙芝居の読み聞かせて、環境の大切さを考えます

もちろん、同園でも「そらべあ発電所」は大活躍。この1年間でいちばん発電量があったのは5月の晴天の日中で、園の電力使用量の半分以上を賄ってくれました。

「紙芝居の読み聞かせの後で、発電モニターを子どもたちに見せ、そらべあ発電所がおひさまの光でどれくらい電気を作っているかを説明します。おひさまの光だから煙も熱も出さず、空気を汚さないとってもいい発電所だね、ということも伝えています」(前川園長)。

今後も子どもたちの環境教育に、そらべあ紙芝居や発電モニターが役立ってくれたらうれしいですね。



「今、おひさまはどれくらい電気を作っているかな?」発電モニターの数字をみんなで確かめます

## 地球温暖化で白くなるサンゴを何とかしたい ～沖縄のサンゴ畑を訪問しました

「サンゴの白化現象」については地球温暖化の影響の一つとして、そらべあ環境教室でいつも子どもたちにお話しています。サンゴは共生している褐虫藻の色素によってカラフルな色をしています。褐虫藻は海水温が上がると繁殖・生息ができなくなってサンゴから離れてしまい、サンゴは石灰部分だけを白く残して死んでしまうのです。サンゴ礁には多様な海洋生物の1/4が生息するといわれるほどですから、サンゴが死んでしまうと、そこに棲むさまざまな魚や生き物も生活できなくなります。

沖縄県読谷村在住の金城浩二さんは、この白化

現象の対策として「サンゴ畑」で養殖・苗の植え付けを行っており、数年前には水温が高くなって死滅しにくい「耐性サンゴ」も生み出しているほどです。

小さい頃から沖縄の美しい海が大好きだった金城さんは「この問題の悪者を探しているより、自分たちに何ができるかを考えて行動することが大事。自然を観察すると、答えは全部自然が教えてくれる」と言います。子どもの頃から自然と親しみ、恩恵を感じる心を養うことが、地球環境を守る第一歩に繋がるということを改めて実感。「そら」と「べあ」も元気なサンゴが増える活動を応援しています。



サンゴ畑は、素材の工夫により、外海よりも4～5℃低く保たれています



サンゴの一部をはさみて切ります



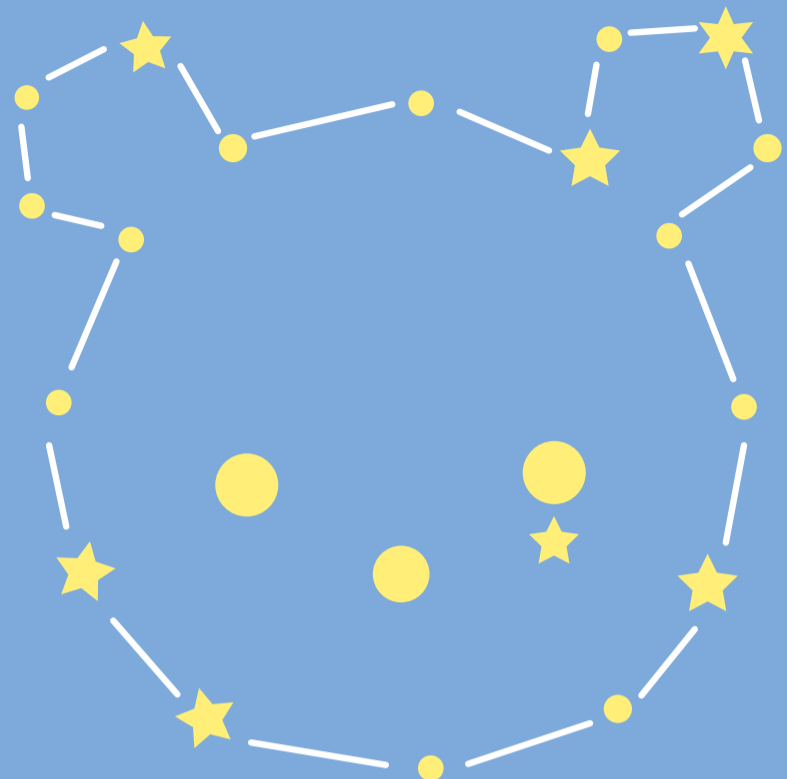
楊枝を使って穴に砂で固定して、できあがり!



苗床にはサンゴと共生する魚がいっぱい!







©Shinzi Katoh

1

2

3

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
					31	